

2018年の「発見!水の文化」がスタートしました!

Webで公開中!

ミヅカン水の文化センターが2017年度からスタートした「発見!水の文化」。身近で気軽に参加できるような企画テーマを用意しています。2018年度の「発見!水の文化」にもぜひご期待ください!
<http://www.mizu.gr.jp/hakken/houkoku/>

第6回

船でめぐる東京の水辺 ～かわりゆく臨海部編～

—2018年4月28日(土) 9:00～12:30

講師: 阿部 彰 (あべ あきら) さん 一般社団法人 まちふね みらい 塾 専務理事
 高松 巖 (たかまつ いわお) さん 一般社団法人 まちふね みらい 塾 代表理事

参加者数
38名



船から眺めた豊洲市場



有明アリーナの工事現場

2018年度最初の「発見!水の文化」は、2017年に残念ながら台風で中止になってしまった企画をついに実現! 好天に恵まれたゴールデンウィークの初日。開発が進んでいる東京の臨海部の歴史・文化的背景について学びながら、これからどのように変わっていくかというのを水面側から発見しました。



開催した 「発見!水の文化」

第7回

江戸の水辺街歩き (日本橋編)

—2018年6月9日(土) 開催

ルート: 日本橋・日本橋室町エリア → 日本橋堀留町・小網町エリア → 日本橋兜町・茅場町・新川エリア → 隅田川河口解散

第8回

船でめぐる東京の水辺 ～江東の内部河川編～

—2018年6月23日(土) 開催

※2018年10月13日(土)も開催決定

ルート: 豊洲～荒川ロックゲート → 旧中川・横十間川・小名木川エリア



荒川と旧中川を「船のエレベーター」としてつなぐ荒川ロックゲート

2018年9月以降の予定は決まり次第、HPでご紹介いたします。皆さまの参加を心よりお待ちしております!

Web「水の風土記」最新記事のご紹介

魅力あふれる独自の「水の文化」を培っている「人」や「事・場」を訪ねて、その研究や活動を「水の風土記」としてホームページでご紹介しています。ぜひご覧ください! <http://www.mizu.gr.jp/fudoki/>

Webで公開中!

人ネットワーク

アクアツーリズムから探る「水と人」の付き合い方

野田 岳仁 (のだ たけひと) さん
立命館大学 政策科学部 助教



琵琶湖の北西部に位置する滋賀県高島市の「針江(はりえ)集落」に足しげく通い、ここを基準点にしながら各地を訪ね歩く野田岳仁さんに、アクアツーリズムの可能性についてお聞きしました。

事・場ネットワーク

「結の心」で取り戻した「水の知見」を海外へ!

福井県大野市

40年前に深刻な「井戸枯れ」の危機に直面した福井県大野市は、市民が一体となった保全活動で再び地下水を取り戻した歴史があります。さらに、数年前からもう一步踏み込んだ地方創生への試みを進めているとお聞きして現地に向かいました。

湧き水を飲む男の子



水の文化 Information

■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。

<http://www.mizu.gr.jp/>

■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

■「水にかかわる生活意識調査」ホームページで公開中

20年以上にわたり、ほぼ同じ内容で日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化に関する生活意識調査を実施しています。結果はすべて公開していますので、ぜひご利用ください。

皆さまの感想を お待ちしております！

『水の文化』59号について、アンケートにご協力ください。
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<http://www.mizu.gr.jp/form59.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX: 03-3568-4025

メールアドレス: mizubun@mizu.gr.jp

編集後記

少年期に友達と近くの池や川で楽しんだ釣り。その際に釣った魚の魚拓を取り、その後、家族で美味しく食したことを久しぶりに思い出した。今回のテーマを通じて「釣り」は、単に魚を釣るだけではなく、そこにある人間の気持ちや文化があることを再度認識することができた。(浅)

自分は釣りをしないが、息子にはして欲しいと思っている。この取材を通じて釣りの多面的な魅力に触れ、思いは強まった。釣り方の工夫や命への対峙の仕方、環境への配慮法など、正解のない無数の問いに自問自答する過程から得るものは計り知れない。釣堀から連れ出した。(松)

初めて本格的に釣りを体験する機会を与えられ、なんとか二匹が釣れた。釣った瞬間に感じた喜びは、確かに普通のスポーツと比べられない感覚で、釣りに没頭する人たちの精神は実感できたと思った。それと同時に、釣られた相手が可愛そうと思わずにはいられなかった。(FG)

釣りに対して残酷なイメージを持っていたが、取材を通じて釣りと水、環境への深いつながりを感じた。また初めて釣りを体験し、釣りを楽しむ人の気持ちを感じることができた。関わり方によっては、釣りも素敵な趣味になるのではないかと思った。(青)

夏休み、家族旅行の定番が海水浴と釣りだった。黙々と釣り糸を垂らして、どんな魚が釣れるのかワクワクした。釣りをしている間、会話は無かったけれど、一体感というか、団結感があったと思う。外食先、全員がスマホを見ている家族に是非オススメしたいものだと思ったのでした。(飯)

釣りは小学生の時以来で、釣堀である程度釣れた記憶がある。今回、本格的な釣りの機会があったが、いずれも釣れず……。取材を進めていくと、いろいろな仕掛けや工夫、心構えがあることがわかり、自分の姿勢の甘さを痛感した。大岡玲さんの言葉をお借りすれば、次回こそ地球と交信してみたい。(力)

少年期は釣りに夢中だった私。今回の取材で久々に琵琶湖のバスをルアーで狙い、生まれて初めてテンカラと和竿を体験すると、釣り熱が一気にふり返りました。しかも若い頃とは違って、ただ水辺で竿を振っているだけで大満足。「歳を重ねるのも悪くないなあ」と思いました。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第59号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル 4F

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

発行日

2018年(平成30)6月

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学名誉教授
鳥越皓之 大手前大学学長
中庭光彦 多摩大学教授

制作

浅野修弘
松本裕佳
Fleminger George
青木広実
小林夕夏
久保悦史
飯野真奈実

編集製作

前川太一郎 編集
中野公力 デザイン・撮影
蔵田 豊 デザイン

執筆

秋山健一郎 (pp.31-34)
佐々木 聖 (pp.6-9, pp.28-30)
開 洋美 (pp.10-13, pp.24-27, pp.42-44)
前川太一郎 (pp.14-23)

撮影

大平正美 (p.24, p.28, pp.42-44)
葛西亜理沙 (pp.4-5, pp.10-13)
川本聖哉 (pp.2-3, pp.14-19, pp.22-23)
鈴木拓也 (p.6)
中野公力 (pp.45-49)
藤牧徹也 (pp.20-21, pp.31-34, pp.38-41)

描画

赤木あゆ子 (p.16)

印刷

中塾総合印刷株式会社